



# UNIC Tokyo Dateline UN

Jan.-Feb. 2001 Vol.18

国際連合広報センター

## アナン事務総長、日本を訪問

2001年1月22 25日

二日半におよぶ中国訪問を終え、コフィー・アナン国連事務総長は1月22日(月)の夕方、ナーネ夫人と10人の随員と共に日本に到着しました。今回は外務省賓客としての公式訪問で、事務総長に就任してからは四度目の来日です。

成田空港に到着直後、アナン事務総長は、待ち受けていた記者団に対し短い声明を発表しました。その中で事務総長は日本滞在中に天皇陛下謁見、森首相、財務そして外務大臣との会談において共通の関心事項である国連改革の中でも特に安全保障理事会(安保理)改革、平和維持活動(PKO)、開発などの問題について話し合いを行うことになるであろう、と述べ、それぞれの会談に寄せる大きな期待を表明しました。「森首相自身も最近アフリカから戻られたばかりと聞いています。アフリカ情勢について首相と話し合うことを大変楽しみにしています。」と述べました。

また、コンゴ民主共和国(旧ザイール)情勢に関する質問に対しては、「コンゴの新たな指導者に民主的な国家建設を期待し、地域の安定のために近隣諸国との協力を強化していくことを望みます。」と、1月17日にカメルーンの首都ヤウンデで行われたアフリカ-フランスサミットでもコンゴ民主共和国が議題の中心であったことを明らかにしました。

1月23日(火)には天皇后両陛下との謁見を終えた後、森善朗総理大臣、宮沢喜一財務大臣、河野洋平外務大臣との個別

懇親会に出席したアナン事務総長夫妻と国連親善・名誉大使の皆さん。



UNハウス除幕式で演説するアナン国連事務総長。



UNハウス展示会開幕式。

会談をこなし、同日、国連貢献議員研究会(自民党)国連議員連盟および国連社会開発推進議員連盟という三つの国会議員グループとの懇談も行いました。

各会談は、昨年9月のミレニウム・サミット、国連改革、特に安保理改革とアフ

### INSIDE

アナン国連事務総長訪日	2
UNハウス除幕式	4
UNハウス展示会	5
事務総長記者会見	6
ダボス世界経済フォーラム	8
加藤登紀子UNEP親善大使	11
国連広報センターインターネット博覧会(インパク)参加	12

<http://www.unic.or.jp>



天皇陛下(右)と歓談するアナン事務総長。



森首相(左)と。



河野外相(右)と。



宮澤財務相(左)と。

リカ情勢に関するフォローアップを中心に進められました。事務総長は包括的和平、開発援助を通じた安全保障、紛争予防、人道援助に対する日本政府の貢献の重要性を指摘し、これを称賛しました。その他、会談の中では邦人国連職員数の増強、国連という機関に対して日本人一人ひとりの理解を得ることがいかに重要か、ということが議題に上りました。

また、最近日本の首相として始めてサハラ以南のアフリカを訪れた森首相との会談の中で、アナン事務総長は、アフリカ大陸における日本の貢献に謝意を示し、地域の安定と開発に関して意見交換を行いました。事務総長と一行のために設けた昼食会を主催した森首相は、その席で、アフリカ訪問中にスーダン難民の少女が読み上げた手紙を自ら披露しました。以下はその手紙の引用の一部です。

「いつの日か、女の子たちが男の子たちと一緒に学校に行けたらいいなと思います。女の子は結婚しても学校を諦めなければならないことがないように。皆さん教えてください、女の子である私にはチャンスがあるのでしょうか。」  
 「いつの日か、女の子も教師、医者、技術者といった男の子と同じような重要な仕事につけたらいいな。皆さん教えてください、女の子である私にはチャンスがありますか。いつの日か、戦争なんか世界からなくなって、どこの人々もみんな同じになる日が来たらいいな。皆さん教えてください、そのチャンスはありますか。いつの日か女の子も男の子と同じような権利が持てる日をみんなが夢見ています。女の子の居場所が台所だなんてもう違う、とみんなが言っています。」アナン事務総長は、森首相のアフリカに対する強いコミットメントに対し感謝の意を表しました。

河野外務大臣との会談では、中東、湾岸、朝鮮半島情勢を含む国際平和、安全保障に関する諸問題を再検討し、国連と日本の共通の理解を深め、確認しました。その後の宮沢財務大臣との会談では、日本を含む世界の様々な地域の経済状況を中心に話が進められました。国連側が懸念していた日本のODA削減に関しては、宮沢財務大臣は、政府は今後も引き続きODAの有効な活用を慎重に考慮していく、と伝え、一元的なODA削減という議論に対してけん制を行いました。

国連貢献議員研究会のメンバーの1人としてアナン事務総長との会談に参加した熊代昭彦氏は「事務総長とお会いする前に、初めて国連本部のホームページをクリックして事務総長の最近の外交内容を確認できました。早速国連のホームページを私のお気に入りサイトのリストに付け加えておきました。」と話していました。

事務総長の1月24日(水)最初の日程は、昨年未まで国連難民高等弁務官として10年間に及び活躍され、現在日本に帰国している緒方貞子氏との会談で始まりました。緒方氏は、インド人ノーベル経済学賞受賞者アマルティア・セン博士と共に「人間の安全保障」世界委員会の共同議長を務める予定であり、アナン氏は国連としてもその委員会に対しエールを送り、今後も協力をしていくことを約束しました。

「人間の安全保障」という概念は、国連開発計画の「人間開発報告書1994」で初めて紹介され、日本政府は故小渕恵三総理がイニシアチブを取って推奨し、現在では日本の外交政策の軸に据えられています。国連内にも日本政府からの資金提供によって特別基金が設けられ、既に世界の人間の安全保障が脅かされている地域や事項に対し、この基金から援助が行われています。緒方氏との会談後、事務総長は在京アフリカ諸国29ヶ国の大使と会談し、国連

と安保理改革、コンゴ民主共和国、日本と国連との関係などについて話し合いました。

この日の最大のハイライトは、アナン事務総長が夫人および随員と共に国連大学本部を訪れ、「UN（国連）ハウス」の除幕式に参加したことです。国連大学ビル自体が、これまでの「国連大学」という名称から、一般の方が親しみやすく、気軽に立ち寄れるような開放的な施設となることを目指し、「UNハウス」という愛称に改められたのです。当日は肌寒い天候にも関わらず、多くの報道陣が「UNハウス」前に集まり、除幕式の模様が広く報道されました。（アナン事務総長の除幕式での演説は本誌4ページに掲載。）

「UNハウス」の除幕式と同時に、事務総長は「人間の安全保障」に関するパネル展示会開会式でのテープカットにも参加しました。この展示は、1月24日から「UNハウス」で開催された「人道的危機における協力についての包括的国際会議」に際して欧州連合（EU）が設置した展示を中心に、「UNハウス」ビル内に事務所をもつ国連広報センターをはじめとする国連諸機関が共催したものです。（アナン事務総長の展示会開会式での演説は本誌5ページに掲載。）

この展示を見学した後、事務総長夫妻は集まった多くの国連職員との歓談を楽しみました。その和やかな雰囲気の中、ナーネ夫人は当日彼女自身のプログラムの中で行った行事に関して報告を行いました。特に、「仕事と女性の未来館」での日本の働く女性との意見交換会と、小学校への訪問とそこでの日本の子どもたちとの交流は非常に印象深かった、と述べました。夫人が小学校で行った国連に関するスライド上映に関しては、児童に理解しやすい有意義なものでした、と小学校側も感謝の意を表明しています。

「UNハウス」を訪れた後、同じく渋谷にある日本放送協会（NHK）の放送センターを訪問しました。NHKの海老沢勝二会長とはNHKからのハイビジョン放映施設の寄付に関し、NHKと国連との間で約定書が交換されました。また、事務総長一行は大河ドラマや子ども番組の収録風景なども見学しました。

その日の夕方、事務総長は日本記者クラブで共同記者会見を行いました。記者会見では安保理の改革に関する質問や、近日集中的に報道された国連の非効率な財政管理体制などについての厳しいコメントが出されました。アナン事務総長はそれに対し、「他の多くの組織同様、国連も改善すべき点は多くありますが、『木を見て、森を見ず』というような国連批判が蔓延するのではなく、国連が行っている人道援助や紛争解決などの多くの貢献を広い視野で見てほしいと思います。」と訴えました。（アナン事務総長の共同記者会見での冒頭演説は本誌6ページに掲載。）

その後民主党代表鳩山由紀夫氏と会談し、日本の開発援助や国連平和維持活動（PKO）への貢献について話し合いがもたれました。

日本政府のニューヨーク常駐代表である佐藤行雄大使主催の夕食会に参加する前に、事務総長夫妻は、6名の日本からの国連親善・名誉大使と懇談しました。多忙なスケジュールの中、お集まり下さった親善・名誉大使は黒柳徹子氏（ユニセフ親善大使）、中田武仁氏（国連ボランティア名誉大使）、アグネス・チャン氏（社団法人日本ユネスコ協会親善大使）、紺野美沙子氏（国連開発計画親善大使）、マリ・クリスティーヌ氏（国連人間居住センター親善大使）、加藤登紀子氏（国連環境計画親善大使）の皆さんです。懇親会では歌手の加藤登紀子氏が即興でアイヌの民謡を披露するなどし、盛り上がった雰囲気の中、アナン夫妻は国連親善・名誉大使と共に楽しく歌い、手を取り合っ



UNハウスでの国連職員との懇親会におけるアナン事務総長夫妻。



国連広報センターが参加している「インパク」のホームページを見るアナン事務総長夫妻。



小学生たちとの交流を楽しむナーネ夫人。



NHK 大河ドラマの出演者と記念撮影するアナン事務総長夫妻および佐藤国連大使夫妻。



国連親善・名誉大使との懇親会で。

て踊りました。

事務総長一行は1月24日（水）中に今回の公式訪問の日程を全て終え、スイスのダボスで行われる世界経済フォーラムに出席するため、翌日25日（木）チューリッヒに向けて飛び立ちました。（アナン事務総長の世界経済フォーラムでの演説内容は本誌8ページに掲載。）



アナン事務総長夫妻と共に手を取りあい、ダンスを楽しむ国連親善・名誉大使の皆さん。

## 「UNハウス」除幕式、アナン国連事務総長挨拶

（2001年1月24日、UNハウス）



（左から）親善大使のアグネス・チャン氏、マリ・クリスティーン氏、黒柳徹子氏、加藤登紀子氏。

ここ東京で「UNハウス」がオープンの運びとなった今日、この場にお招き頂いたことにお礼を申し上げます。国連は長い間、一般の方々からのご厚意と日本政府からの多大なご協力を頂いてここまで来ました。それに加えて日本は、アフリカを初めとして世界中の国々の発展に大いなる貢献をしています。その証拠に、最近も森首相がアフリカ大陸を訪問しておられます。

今日私たちがここに集いましたのも、さらに緊密な協力関係を築き、そして国連創設者たちが定め、さらに日本国民の皆さまが取り組み、培ってこられた尊い目標を達成するため、私たちの努力をより一層強めるのが目的です。

掲示板を見てもわかるように、国連システム内の様々な国連機関やプログラムで構成されている「UNハウス」は、今後国連の看板的存在として、私たちが取り組んでいる多様な問題を一般の皆さんに知らしめる役割を担っています。皆さんご存知の通り、ニューヨークの国連本部は勤務場所を「ハウス」と呼ぶ場合が多いのです。これは単なる偶然ではありません。なぜならハウスを「共有する」とは共通の絆と構造を持つということで、それがあってはじめて私たちは国連創設の際の理念そのものを思い描くことができるのです。確かにこのビジョンは、ミレニアム・サミットに出席した国家元首ならびに政府の代表によって裏付けられたものです。彼らの言葉を引用しますと、「国連は人類という家族全体にとって絶対不可欠な、共通の『家』なのです。それを通じて私たちは平和、協力、開発という共通した目標を達成しようと努力します。」今回のこの東京の「UNハウス」にはこのように多彩なスタッフと学識経験者が揃っており、私たちのビジョンを表現するにふさわしいものとなっています。



UNハウスの除幕式で挨拶するアナン事務総長。

「UNハウス」の完成により、私たち国連が今後一層の努力をし、日本の皆さまの信頼に応え、日本政府ならびに国民の皆さまに平和と開発という大きな目標を達成するための新たな、そして構想に富む方法を提供したいと思っています。私は皆さまが日本において国連の新たなページを開くことに成功を収め、日本と国連のより密接な関係を確立することを願ってやみません。



# 「UNハウス」 展示会開幕式 アナン国連事務総長挨拶

(2001年1月24日、UNハウス)

私の話は簡潔に終わらせることに致しましょう。なぜなら、良き友人でもある欧州委員会のポール・ニールセン開発・人道援助担当委員がとても詳しく、かつ正確にお話をしてくださったからです。

過去10年間を振り返ると、人道主義の分野においてさまざまな発展がある一方で危機にも直面してきました。ここで言う人道上の危機とは、戦争によって起こる可能性もあれば、自然災害によって起こる可能性もあり、あるいは自国で行き場を失った人々によって引き起こされる可能性もあります。その数は莫大です。つまり、何百万という多くの人々についての話をしているのです。私たちはしばしば現地へ赴き、そこでは欧州連合(EU)あるいは各国政府、その他の資金提供者のご協力と援助を頂いています。

しかし、私たちは常にこのように問いかけています。「私たちは適切な援助を行っているのだろうか。」「正しいことをしているのだろうか。」「私たちの援助はしかるべき効果を生んでいるのだろうか。」「私たちの援助によって戦争もしくは紛争が回避されただろうか。」「援助を必要としている人々に対して、私たちはどうしたら援助をより効果的に提供できるのだろうか。」と。

こういった模索は今後も永遠に続くでしょう。私たちの援助の手が届く人々もいれば、届かない人々もいます。そして私たちは常に、援助を求める人々の要求が満たされるよう努めています。私たちの手の届く人々にしか援助が届いていないのではないだろうか。私たちの手の届かない人々、あるいは私たちの視野に入らない人々はどうかと。このような人は忘れられた存在になっているのではないか。どうしたら私たちの手が彼らに届くのだろう。彼らのために何ができるのだろう。私たちは現在も、そしてこれからも、こういった疑問に取り組んでいくことでしょう。

私たちには協力や資金援助をしてくれる国々があり、そのおかげでこれまで通り、いや今までより一層問題の改善を図ることができるでしょう。すべての人々にあますところなく援助の手を差し伸べることはできなくても、たった一人の人しか助けることができなくても、あるいは半数の人々しか助けることができなくても、「誰か」に援助の手を差し伸べることができたこと、そして状況を少しでも良くすることができたことに満足しなければなりません。

今回の展示会をご覧頂ければ、私たちに比べて不運な人々の状況を理解することができると思います。個人的に、そして皆と一緒に自分たちが彼らのために何ができるかを考えることにより、彼らの生活も豊かになり、援助が拡大し、援助対象となっている人々と彼らを援助するために様々な計画が設けられていること、そして彼らが望む援助を与えるべきであることを各国政府が認識する助けとなります。

皆さんは展示会をご覧になるためにいらっしゃったわけで、話を聞きに来られたわけではありませんね。ですからこのへんでやめておきましょう。

さあ、皆で展示会を拝見しようではありませんか。



UNハウス展示会開幕式のテープカットを行うアナン事務総長とニールセンEU開発・援助担当委員。



会場に展示されたパネル(上下とも)。



# アナン国連事務総長 記者会見

(2001年1月24日、日本記者クラブ)



日本記者クラブで会見するアナン事務総長。

## 司会者：

本日はお集まり頂き、有難うございます。ご覧の通り、国連の通例に従って立ったままで記者会見を取り行ないます。国連形式で役目を果たすご要望があるとのことですので私も立ったままで司会進行を致します。アナン事務総長も国連スタイルを守ることを強く望んでおられ、このままの形でお許し下さい。ご存知の通り、アナン事務総長は北京経由で日本にご到着になり、東京の国連大学も訪問されました。今日は、「UNハウス」のオープニング式典に出席されたとのこと。ダボスの「世界経済フォーラム」出席のため、明日には離日されます。日本記者クラブで事務総長が記者会見を開かれるのは4回目になります。前回の会見は1999年11月のことで、残念ながら2000年には来日されておりません。今回は、夫人もご同行されており、私たちも喜ばしく感じております。本日は同時通訳により進行してまいります。まず、アナン事務総長には初めに5分間お話頂き、続いて質疑応答に入らせていただきます。それでは、アナン事務総長よりしくお願いします。

## アナン事務総長：

今日はお集まり頂き、ありがとうございます。そして、起立したままで記者会見を行なうのが国連のスタイルであるということをご理解頂いて、感謝しております。おそらく、私たち国連の者は忙しく立ち働いているため、座る暇もないということを皆さんに印象付けたいのでしょうね。

今日ここに妻とニューヨーク本部の一行と共に、皆さんに再びお会いできたことを心から嬉しく思っています。私は今回の訪日中、既に森首相、宮沢財務相、河野外相とお会いし、創造的かつ友好的な議論を交わしました。さらに多くの議員の方々、政党指導者の方々ともお会いしました。

皆さんもうご存知かと思いますが、東京に「UNハウス」がオープンしました。「国連の家」というだけでなく、日本の皆さんも自分自身の家だと思ってくだされば幸いです。結局のところ、国連は皆さんの機関なのです。「われら人民」のための組織であり、実際私たちも国連が開かれた機関となるよう努力して来ました。

日本は国際舞台において、本当の意味でグローバル・プレイヤーの役割を果たしていると思います。この事実は、次第に世界の認識するところとなっています。私は日本に来る前に、カメルーンのヤウンデで開催された「フランス-アフリカサミット」に出席して来ました。現地で私が会ったアフリカの指導者たちは、森首相による歴史的なアフリカ訪問にいたく感激していましたが、彼らや私にとって、かの大陸と日本は強い絆で結ばれていること、そして日本の皆さんが開発途上国を重視して下さっていることが感じられました。私はまた、新世紀の幕開けに際し、国連において日本が指導力を発揮していることが感じられ、励まされる思いで一杯です。

日本政府の協力で、「人間の安全保障委員会」が設立されることになっていきます。緒方貞子前国連難民高等弁務官とアマルティア・セン教授を議長として迎えるこの委員会に関し、私は今回の訪日中、議論を深めることができま



司会を務める朝日新聞論説副主幹  
住川治人氏。



した。私たち国連にとって、人間の安全保障は重要な問題であり、日本がこの問題について指導的な役割を果たすことを嬉しく思っています。なぜなら国連活動の核をなすのは、一人ひとりの人間だからです。そして将来、同委員会は国連の活動において有益な役割を果たすことでしょう。私は緒方氏と森首相に、私をはじめとして国連が同委員会に対するできる限りのサポートを行うことを約束しました。

世界中を旅している者として、また国連事務総長として、私は日本が援助を必要としている世界の国々に対して果たす重要な役割は、いくら強調しても強調しすぎることはありません。また、軍縮問題において日本が果たす欠くべからざる役割について、日本の皆さんがその重要性を認識していらっしゃるということについて声を大にして申し上げたいと思います。この問題については、一般の方々の正しい認識が薄れることのないよう、常に活発に議論すべきでありましょう。

日本の皆さんは人道的な問題から開発援助に至る国連活動のあらゆる分野において、広く貢献して下さっています。報道関係者の皆さんを通じて、日本の方々へ感謝の意を表したいと思います。日本の皆さんは様々な平和活動に参加して下さっていますが、ことに東ティモールでの平和維持活動は、現地で多大な効果を上げました。

既に新たな年を迎えましたが、昨年ミレニアム・サミットが開かれ、その成果としてミレニアム宣言が採択されたことはまだ記憶に新しいことと思います。この宣言は私たちにとって、新たな世紀のためのゴーサインとなりました。この宣言は特定の期限と目標を持った一つの活動計画であり、定められた期間内にそれを達成すべきであると私たちは考えています。ミレニアム活動計画は貧困の撲滅を目指すもので、2015年を期限として「最貧」状態の50%減を目標としています。さらに私たちはエイズとの闘いも続けなければなりませんし、環境問題に目を向け、各国政府や一般の人々に、現在と同じように世界の資源を開発してはならないこと、次の世代の子供たちのために健全な世界を築くことが重要であることを認識してもらわなくてはなりません。

それは同時に、政治及びグローバル化に関わる問題であり、全ての人々が協力してそれを万人に資するものにする必要があります。従って私たちは、それを達成するために遠大な計画を立てています。しかし、それはニューヨーク国連本部だけで実行できることではありません。各国政府、民間部門、市民社会や個人それぞれに果たすべき役割があり、協力してそれを行なう必要があるのです。

今晚、この記者会見終了後に、私は日本の国連親善・名誉大使の皆さんとお会いし、国連の代表として大使の皆さんが果たして下さっている伝道者的な役割をどのように拡大していけば一番良いのかを話し合う予定です。その後司会の方がおっしゃった通り、明朝にはダボスの「世界経済フォーラム」に向けて出発します。(質疑応答を含めた本記者会見の全文を、英文あるいは日本語で入手ご希望の方は当広報センターまでご連絡下さい。)



記者の質問に耳を傾けるアナン事務総長。



記者会見会場風景。





世界経済フォーラムで演説するアナン事務総長。

# 国連事務総長、世界経済フォーラムで演説

## 「グローバル化を万人のために」

以下は、コフィー・アナン国連事務総長が1月28日、ダボス（スイス）での世界経済フォーラムで行った演説の本文です。

まず始めに、ただ今ご紹介をいただいたクラウス・シュワブ氏に対し、私を再びダボスにお招きいただいたことを感謝したいと思います。

2年前、私はここで、グローバル化の脆弱性についてお話ししました。皆様の中には、私があまりにも心配性だとお考えになった方々もいらっしゃるでしょう。それでも私は、以後の出来事が私の心配の正当性を示したと信じています。

私たちにとっての挑戦は、私たちが目の当たりにした抗議行動ではなく、こうした抗議行動が反映し、広まりを助長している世論の雰囲気にあります。なぜなら、今日の世界では、あまりにも多くの人々にとって、開放の進展が彼らの生計、生活様式、そして、政府が自分たちに奉仕し、自分たちを守ることでできる能力への脅威となっているからです。大げさ、あるいは、見当違いだったとしても、ロシアの諺は「恐怖は大きな目をしている」と教えています。さらに付け加えるならば、それは政府の耳をとらえ、対応を強いられているとの意識を与えることとなります。

しかし、大半の人々がグローバル化を後退させようと望んでいるわけではありません。ただ、人々は現在のもとは異なる、よりよいグローバル化を期待しているのです。

これこそが、過去最大の元首・首脳会議となった昨年9月の国連ミレニアム・サミットから生まれたメッセージでした。サミットの目的は、新世紀の国連にとっての中心的優先課題を改めて見直すことにありました。グローバル化を世界のすべての人々に資すること以上に重要とされた課題はありませんでした。

ここにお集まりの皆様は、それが可能であり、また、実際にそうなることを当たり前のようにお考えかもしれません。しかし、私たち人類の同胞の半数が一日2ドル以下でどうにか生活し、世界人口の90%の人々に影響を及ぼす健康問題に用いられる額が、世界全体の保健研究予算の10%に満たないという現状を考えれば、これを納得させることはずっと困難なのです。

電話をかけたことも受けたこともない地球上の半数の人々、ニューヨークのマンハッタン地区の住民よりインターネットの利用者が少ないサハラ以南アフリカの人々にとって、グローバル化が何を意味するかを考えてみてください。

また、特に若者たちに対し、この21世紀の幕開けにおいて、グローバルな規則体系がなぜ、基本的人権を守ることよりも、知的所有権を保護することに重きをおいているのかを、どのように説明したらよいのでしょうか。

皆様、問題の本質は次の点にあります。すなわち、グローバル化を万人のためのものとしなければ、それは誰のためにもならないのです。今日のグローバル化を特徴付けている利益の不平等な配分とグローバルな規則作りに



マイクロソフト社ビル・ゲイツ会長(右)と。



ビンセント・フォックス、メキシコ大統領(右)と。



おける不均衡は、間違いなく反発と保護主義を生み出すでしょう。そしてこのことは、これまで半世紀にわたって苦勞して築き上げられてきた開放的世界経済の根底を揺るがし、最終的にこれを崩壊させる危険性をはらんでいます。

ミレニアム・サミットでは、各国の元首・首脳がこの格差を縮めること、すなわち、所得の不平等について言えば、2015年までに世界の貧困を半減させることを決議しました。

しかし、サミットではまた、政府だけでこれらの目標を達成できないことも認識されました。このため、そのミレニアム宣言で指導者たちは、民間セクターおよび市民社会組織との強力なパートナーシップにより、すべての人類共通の目標に向けて努力するという考えに支持を表明したのです。

事実、私たちはそのようなパートナーシップ作りを順調に進展させています。皆様もご存知かと思いますが、私は2年前、この世界経済フォーラムで「グローバル・コンパクト」を提案するとともに、財界指導者に対し、新たなグローバル経済に欠けている社会的基盤の整備に応分の役割を果たすよう求めました。きょう私は、再びこのテーマに戻り、さらにこれを一層促したいと思います。

私は財界指導者に対し、政府が新たな法律を施行するのを待つのではなく、自発的に自社の実践を改善していくよう要請しました。具体的に言えば、私は皆様に対し、自社の内部で、人権、および環境と労働基準に関する普遍的に受容された合意から生まれた9つの中心的原則を採用し、これを実践するよう求めました。そして私は、このことに関し、皆様に対し、適切な国連機関による協力を申し出ました。

私は、多くの財界指導者がこれに前向きな対応を示したことを嬉しく思います。それと同じく重要なことは、指導者の方々が、これら目標の達成を目指して市民社会と協力することの価値を認めたということです。

よって、グローバル・コンパクトには、世界中の一流企業だけでなく、国際自由労働組合連盟、ならびに、人権擁護、環境保護および開発分野で活動するボランティア組織十数団体も参加しています。これらの企業と団体は協力して、よい慣行の判別と促進を行うことにより、悪しき慣行の排除に努めています。グローバル・コンパクトは規制でも行動規範でもなく、何がうまく行き、何がうまく行かないかについての教訓を学び、共有するための綱領なのです。

昨年7月、これら3つの部門すべての代表が国連本部を訪れました。私たちは、どのようにしてグローバル・コンパクトを推進すべきかに合意し、2002年までに主要な企業1,000社が達成すべき目標を設定しました。

私はきょう、最近になってABBの最高経営責任者を辞任されたゲーラン・リンダール氏が、この企業勧誘の努力を指揮し、グローバル・コンパクトに関する私の特別顧問として戦略的指導を行うことに同意されたことを発表でき、とても嬉しく思います。リンダール氏は、極めて輝かしい実業家としての業績だけでなく、企業の社会責任と市民性に対する強力なコミットメントをもってこの任務に臨んでいます。

グローバル・コンパクトはまた、後発開発途上国における投資促進から、職場およびその周辺における人権推進に至るまで、多くの具体的なプロジェクトに着想を与えています。しかし、グローバル化の機会がより広く享受され、評価されるようにするために私たちができることは、さらにたくさんあります。



パレスチナ自治政府のアラファト議長と。



フォーラム参加者と共に。



コカ・コーラ社のダフト会長夫妻(左)と。



世界経済フォーラム会場風景。

## グローバル・コンパクト 9 原則

グローバル・コンパクトは、企業に対し、それぞれの影響力の及ぶ範囲内で環境、人権および労働基準に関連する中核的な価値を採用、支持、実行するよう求めています。

### 環境

1. 企業は、環境問題の予防的なアプローチを支持しなければならない。

2. 企業は、環境に対する一層の責任を促進するイニシアチブを実行しなければならない。

3. 企業は、環境にやさしい技術の開発と普及を促進しなければならない。

### 人権

4. 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持および尊重しなければならない。

5. 企業は、人権侵害に関与していないことを確認しなければならない。

### 労働基準

6. 企業は、組合結成の自由と団体交渉権の有効な認識を支持しなければならない。

7. 企業は、あらゆる種類の強制労働を排除しなければならない。

8. 企業は、児童労働を確実に廃止しなければならない。

9. 企業は、雇用と職業に関する差別を排除しなければならない。

詳しくは、

[www.unglobalcompact.org](http://www.unglobalcompact.org)  
をご覧ください。

世界の多くの場所では、暴力と混乱をもたらす紛争が、社会と経済の進歩を阻む最大の障害となっています。

このことはもちろん、主として政府の責任です。しかし、こうした不幸な地域で活動する民間企業は、和平の可能性を拡大したり、あるいは、少なくとも紛争の継続を助長したりしないようなやり方で、責任ある行動を取るよう、大いに慎重を期すべきです。デピアス社は、アフリカにおけるダイヤモンド取引への批判に対応し、ダイヤモンドの取引業者と消費者が無意識のうちに戦闘指導者の資金調達に手を貸さないようにするための努力を行い、模範を示しました。私たちはグローバル・コンパクトにより、企業が戦闘地域で演じることのできる、また、演じるべき適切な役割に関し、関係者間で共通の理解の確立を図るべく、初めてのテーマ別対話を始めようとしています。

私は、グローバル・コンパクトが、少しずつではあれ、世界を変えていく助けとなりうる、やりがいのある試みだと信じています。よって私は、きょうここにお集まりになった財界指導者のうち、私たちの試みに参加していない方々も、早急にこれに加わっていただけることを期待しています。

私はまた、グローバル・コンパクトを批判してきた市民社会組織の方々も、国連で働く私たちにとって、民間セクターとの提携を図ることが単なる選択ではないことを理解されるだろうと期待しています。この試み、さらにその他の試みにおいても、それは不可欠なのです。私たちは、状況を変えていくことができるすべての社会的主体を関与させなければなりません。

開発途上国で普通の生活を営む上で大きな障害となっている風土病あるいは感染症の蔓延を押し戻すことは、実効的なパートナーシップを通じてのみ可能です。アフリカにおけるHIV/エイズ蔓延の恐怖を、その人的側面と経済的側面の両方で完全に把握している人は、私たちの中にいないのでしょうか。一部の国々で、HIV/エイズは世代全体を破滅させています。すでに感染した人々を助けるとともに、とりわけHIVの蔓延を食い止めるために、私たちにはあらゆる努力を行うという重要な義務があるのです。

同様に、医薬品だけでなく幅広い投資は、開発途上地域にとって非常に重要です。真の意味で発展しつつある開発途上国とは、自国民の貯蓄と資源の動員はもとより、多額の海外直接投資の誘致にも成功している国々だけなのです。

残念ながら、こうした国々は相対的に見て、一握りでしかありません。それ以外の開発途上国、特に後発開発途上国は、その多くが外国投資にとって極めて好意的な規制枠組みを整備し、その誘致に向けて格段の努力を行っているにもかかわらず、ほぼ完全に取り残されています。

こうした努力が成功していない理由はしばしば、必要なインフラが欠けていること、あるいは、市場があまりにも小さくて孤立しており、魅力に乏しい



エジプトのムーサ外相(左)と。



イスラエルのベレス地域協力相(左)と。

ことに求められます。地域の市場はグローバル市場との厳しい競争を強いられているのです。

国際的な企業はここでも、相互および政府との協力によって、後発開発途上国で事業を行うリスクとコストを削減し、そこでの投資機会について情報を提供することにより、状況の変化に寄与できることでしょう。

パートナーシップが開発途上国にとっての状況を大きく変化させるもうひとつの重要な分野として、情報技術（IT）があげられます。私は、「デジタル・ディバイド（情報格差）」の掛け橋を構築する方法を探る手助けをしてもらうために、小さな顧問グループを設置しましたが、そのメンバーの多くは、ここにいらっしやいます。私はこれらの方々、および、この問題について私と協力することに合意いただいたその他すべての方々に対し、謝意を表します。私はこの情報技術が、多くの貧困国の将来にとって重要な役割を果たすと信じています。

財界指導者の唱道的役割も同じく重要です。グローバル経済に実効的に参加するために、開発途上国はとりわけ、以下を必要としています。

#### より迅速で寛容な債務救済

#### 投資先としての貧困国の魅力を高めることに慎重に焦点を

#### 絞った公的開発援助の増額

#### 貧困国の製品に対する豊かな国々の完全な市場開放

パートナーおよび唱道者としてのこうした幅広い社会的役割は、実業界にとっては馴染みのないものかもしれませんが、これらはもはや、標準的なビジネス・モデルとはっきり区別できるものでもなければ、単なる慈善事業の問題として片付けられるものでもありません。市場がグローバル化する中で、企業の社会的責任という概念と実践もグローバル化しなければならないことを、企業は学びつつあります。企業はまた、最終的に正しいことをすれば、それが



ナイジェリアのオバサンジョ大統領(左)と。

実際にビジネスに役立つことも発見しつつあります。

換言すれば、私がお話したグローバル化の脆弱性は、企業部門自身の利益に大きな挑戦を投げかけており、その解決の中心は、皆様がグローバル市民性の機会だけでなく、その義務をも受け入れる必要性にあるということなのです。

事実、財界指導者であるか市民社会組織であるかに関係なく、ここにお集まりの皆様はすべて、明日のグローバル社会の先駆者です。そこでは、市場は開放されねばならないものの、開放された市場は完全に、共有の価値観とグローバルな連帯とに裏打ちされていなければなりません。皆様は真の意味で、最初のグローバル市民であり、そして皆様だけが、富める者も貧しい者も、各人がグローバル化の恩恵を受ける機会を持てるようになるための行動と唱道を通じ、この言葉に意義を与えることができるのです。

その実現を図る上で私、そして国連は支援を惜しまない所存です。

## 加藤登紀子氏 国連環境計画（UNEP） 特使に

日本の著名なフォーク・シンガー、加藤登紀子氏がこのたび、国連環境計画（UNEP）の「特使」に任命されました。2000年10月30日、総理官邸で行われたセレモニーで発表されました。

UNEPのクラウス・テプファー事務局長はメッセージを送り、加藤氏がアジア太平洋における環境に対する認識向上に貢献し、環境問題に取り組む上での支援構築を助けるだろう、と期待を表明しました。「20世紀後半に私たちが直面した大きな挑戦は依然として残っており、気候変動、生物多様性の損失、ならびに、大気、土壌および水の汚染などの課題につき、私たちはこれまでも増して、即座の注意を傾ける必要があります。」とテプファー氏は語っています。「こうした課題の中には、オゾン層の消失など、グローバルな性質を有するものもあれば、珊瑚礁や森林の破壊など、局地的な人口圧力と貧困の問題から生じるものもあります。」「私たちは時折、直面している挑戦の規模とその複雑さにめまいを感じるかもしれませんが、しかし、幸いなことに、私たちが環境に与える影響を小さくする方策は存在し、人々による実践には勇気づけられるような成功例があります。」「加藤氏は自らの名前と才能をメッセージに乗せることにより、無関心を打破し、資金、意識および精神を高めることに貢献できると思われまます。」とテプファー氏は述べています。

次ページへ続く



UNEP 親善大使、加藤登紀子氏。

加藤氏の歌手としてのキャリアは40年を超えます。同氏は1960年代、日本の歌謡祭で大きな賞をいくつか受賞し、初めて脚光を浴びました。以来、同氏はカーネギー・ホールでコンサートを開き、フランス政府から文化勲章を授章するとともに、WWF 日本委員会の評議員およびパンダ大使として

の役割を通じ、環境保全に関する認識向上に貢献しています。

UNEP に関する詳細は以下へお問い合わせください。

Mr. Tore J. Brevik  
Spokesman/Director of Communications  
and Public Information  
UNEP, P.O. Box 30552, Nairobi  
Tel : (254 2) 623292  
Fax : (254 2) 623692、E-mail : cpiinfo@unep.org

また、加藤登紀子氏に関しては  
Tokiko Planning Co.  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-10-1001  
Tel: 03-3352-3875 Fax: 03-3352-1812  
E-mail: tokiko@tokiko.com

国連親善・名誉大使の懇親会で歌を披露する加藤氏。



# 国連広報センター 「インパク」に参加

i-mode でも情報入手が可能に

国連広報センターは昨年12月31日から経済企画庁により開催されている「インターネット博覧会(通称: インパク)」に参加しています。広報センターのパピリオン(<http://www.unic.or.jp>)では、国連の日々の活動内容を紹介する「毎日の動き」が同日ベースで掲載されているほか、国連広報センターの高島肇久所長がビデオ映像で、国連の活動に関して分かりやすく解説する「高島肇久の国連ブリーフィング」も今後シリーズでお送りしていく予定です。

また、国連に興味をお持ちの小学生の方々にも楽しんでいただけるように、世界のスーパーヒーローを目指して奮闘する「プーク」ちゃんの物語もアニメーションでお送りしています。その他、世界の国々や、地球規模の問題、健康に関する問題などをクイズ形式で考えるクイズコーナーも用意しています。皆さんの身近な問題への答えがマウスのクリック一つで簡単にわかりますので、どうぞお試しになってください。

さらに、インパク開催期間中、国連広報センターでは小・中・高校生を対象とした作文コンクールを行います。テーマは「21世紀の国連と日本の役割」です。詳しい応募要項は国連広報センターホームページ([http://](http://www.unic.or.jp)

[www.unic.or.jp](http://www.unic.or.jp))をご覧ください。皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。

また、携帯電話のi-modeからも国連のニュースをお伝えする「毎日の動き」がご覧いただけます。アドレスは<http://www.un.org/i/>です。是非ご覧ください。



## 発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル8階

TEL: 03-5467-4451 FAX: 03-5467-4455

E-mail: [unictok@blue.ocn.ne.jp](mailto:unictok@blue.ocn.ne.jp)